



万葉集って なんだっけ？

心 あ つ た か ニ ュ ー ス

NMCAA
NO3

令和は万葉集からの言葉ですが、学校の古文で習ったはずですが、少し忘れてしまっていると思います。おさらいしてみたいと思います。ウイツキペティアより 奈良時代末期に成立したとみられる日本に現存する最古の和歌集である。天皇、貴族から下級官人、防人、大道芸人、農民、東国民謡（東歌）などさまざまな幅広い身分の人々が詠んだ歌4,500首以上も集めたもので約130年間の歌が全20巻に分類収録されており、和歌の原点である万葉集は、時代を超えて読み継がれながら後世の作品にも影響を与えている。書名の由来いくつかの説が提唱されている。万の言の葉を集めたとする説で、多くの言の葉に歌を集めたもの「そのほかにも、末永く伝えられるべき歌集」とする説、葉をそのまま木の葉と解して木の葉をもつて歌にたとえた」とする説などがある。研究者の間で主流になっているのは、『吾事記』の序文に「後葉のちのよ」に

流（つた）へむと欲ふ」とあるように、「葉」を「世」の意味にとり、万世にまで末永く伝えられるべき歌集」とする考え方である。

さだまさしさんの歌詞 に万葉の風

さだまさしさんの歌の歌詞は、万葉集を参考に書かれたものがあるそうです。『まほろば』という曲に「黒髪に霜の降るまで」という歌詞がある。白髪になるまであなたを待つ。万葉集巻二にある「君をば待たむぬばたまの 我が黒髪に 霜は降るとも」がモチーフ。防人の詩「ききもりのうた」の有名なフレーズ「海は死にますか 山は死にますか」も万葉集巻十六「鯨魚（いさな）取り 海や死にする 山や死にする 死ぬれこそ 海は潮干て 山は枯れすれ」に着想を得ている。さださんは

これも中国からの写しだと言われるかもしれない。でも内容は日本人の心として自主独立してやってきたわけだね。よくぞ『万葉』という文字を選んだなど」
そして新しい時代が来るっていうことを実感しながら、自分はこの時代をどう生きるのかを考えないといけないですね。だんだん年を取ってくる、自分の仕事とか、自分の場所を守ろうとするけれども、それじゃあいかんかっていう気持ちになりま。ここから新しい自分が始まるんだよと、みんなが思えるといいですね。そんな風に前向きに捉えたい」
（尹スポより）
歌の心で、古の人とながれる感じですね。心の奥にある風景が重なると思えました。